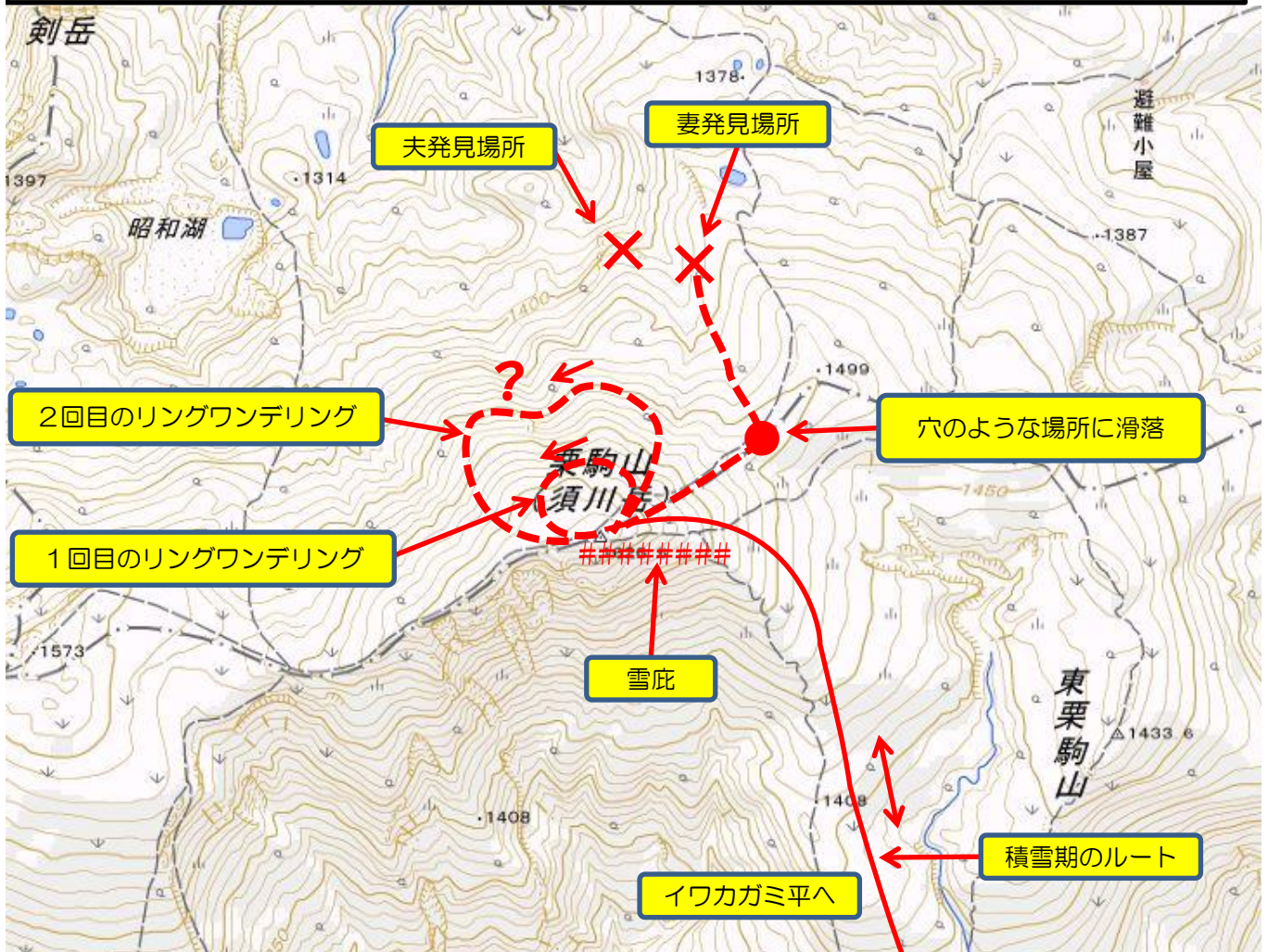


栗駒山遭難(2006年3月)

残雪期、山頂へ到着するも吹雪は激しくなり、完全にホワイトアウトになった。リングワンデリングを繰り返し、道に迷う。一晩ビバークし低体温症になりながらも間一髪、救助された。



解説

ホワイトアウトの中、雪庇を避けるために、左側にルートを取る必要があったため、リングワンデリングになったのではないかと推測される。13時26分、3回目のリングワンデリングで栗駒山山頂に着く。携帯電話が家族に繋がらず、17時までに連絡がなかったら警察に通報するように依頼。

15時40分、この日初めて休憩。その後、脱出を試みるも暗くなってきたため、わずかな穴を掘り下げ、ザックを敷いて疲れ果てて座り込む。夜、明かりが見えたがその明かりは「イワカガミ平」方面の明かりと思いつく。

翌日、早朝から動き出す。夫が先頭で、歩くも妻は遅れだす。その時、爆音とともにヘリが現れ救助された。

遭難直後は、コンパスを使っていたが地図を持っていないため脱出できなかった。夜、見た明かりは、「イワカガミ平」方面の明かりではなく、180度方向が違う北側の「須川温泉」の明かりだったのだろう。間一髪で救助された理由は、①栗駒山に登った経験があった。②道に迷ってから下り過ぎなかった。③天候が回復しヘリが飛んだ。ことに要因すると考えられる。

筆者の方は、「自分の実力を超えないようにしながら、安全な山登りを楽しんでほしい」と書かれている。私も同じ気持ちである。